



1. すこやかセンター散歩 ～車いすコーナーのご紹介～
2. 捨て目
3. 国際福祉器機展に参加してきました！！
4. ホームページをご覧ください！！



1. すこやかセンター散歩 ～車いすコーナーのご紹介～

今回は車いすコーナーの紹介です。現在すこやかセンターでは、車いす 13 台をはじめ、車いすクッションや付属品など合わせて約 70 点の車いすに関わる福祉用具を展示しています。

早速ですがここで、みなさんに質問です。

車いすは「車」でしょうか？それとも「いす」なのでしょうか？移動するから「車」…？そこに座ってごはんを食べたりテレビを見るから「いす」…？

実はこれは私が病院で働いていたとき、福祉用具を好きになるきっかけを与えてくれた師匠からの質問です。そのときの私は答えられませんでした。でも今の私は違います！この質問の正解は…「どちらも正解！」と答えます。

車いすは「車」の機能と「いす」の機能を兼ね備えている福祉用具です。ですから、その利用者がどのような機能を必要としているのかを考えて選定する必要があると思います。師匠はきっとその利用者の生活や身体の機能を見た上で、車いすはどのような役割が必要か考えて選びなさい、と言いたかったのではと今は思います。

車いすには多くの種類があります。合わせてクッションや様々なパーツなどもあり、上手く利用者に向合うものを選定するためには、身体の動きをみる理学療法士や作業療法士と、利用者の生活を知っている家族や支援者との協力が必要です。

すこやかセンターでは、平日に理学療法士や作業療法士による相談を受け付けています。福祉用具の選定はもちろん、福祉用具の使用方法・紹介なども可能です。ぜひ、ご利用ください！

理学療法士 竹内 麻菜美

《すこやかセンター相談受付》



予約不要



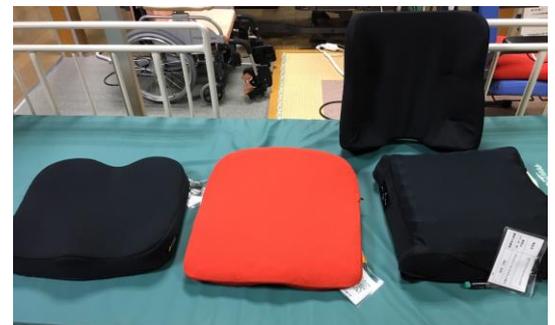
電話相談 OK



一般・専門職の方、誰でも可能です

※平日のみセラピスト在中(9:00～17:30)

福祉用具の販売はしておりません



2. 捨て目

捨て目とは：日頃なにげなく遭遇することがらの中から、ケアに関わるヒントや気づきを書いたものです。

「はやり言葉に振り回されず、本質を見よう」



毎年年末になると、「流行語大賞」が話題になります。先日も、テレビを見てみると今年「流行ったこと」「話題になったこと」を振り返って「流行語大賞」を予想していました。その時、ふと去年の流行語が気になりました。そこで、ス

マホを取り出して去年の流行語大賞を検索してみました。皆さんは覚えていますか？正解は「爆買い」と「トリプルスリー」です。

ちなみに、過去の流行語を紹介します。2014年はダメよ～ダメダメ、集団的自衛権。2013年は今でしょ！、お・も・て・な・し、じえじえじえ、倍返しです。

「懐かしい」と思う方も多いのではないのでしょうか。「じえじえじえ」なんてまだ3年前のことですよ。

流行語は時代を反映すると言われていますが、多くは新しい言葉というよりも、今まである言葉をアレンジしたり、印象に残るような言い方で注目されているように思います。

我々の世界でも「流行語」のようなものがある気がします。たとえば「介護予防」。介護予防は介護状態にならないように予防することを言います。これって、「健康寿命の延伸」「健康づくり」と意味は変わらないように思います。「地域包括ケアシステム」も「医療介護連携」「地域づくり」「自助互助の強化」を一体に推進するということで、今まで使っていた言葉で説明できます。制度が変わるたびに新しい言葉が出てきますが、その「本質」は新しいことではないのかもしれませんが。

ではなぜ今までに使っていた言葉を使わないのか？それは、人々に強く印象に残りたいからかもしれません。

それに成功したのが「メタボ」です。これは、生活習慣病のことなのですが、「メタボ」と言い換えることで、人々の印象に強く残り、今では当たり前のように使われます。

「健康寿命の延伸」も「健康づくり」も「医療介護連携」も「地域づくり」も「自助互助の強化」も、その必要性は今までも言われてきたことです。しかし、それが根付いていないから言い換えをして、人々の印象に残るようにしたのかもしれませんが。

つまり、「印象に残したいくらい大切な事」なのかもしれません。

これから先も職場で新しい言葉が出てくると思いますが、言葉に振り回されないで「本質」を見るようにしませんか。そうすると、改めて大切な事を確認できるかもしれません。

今回の捨て目は「はやり言葉に振り回されず、本質を見よう」です。ドドド～ン。

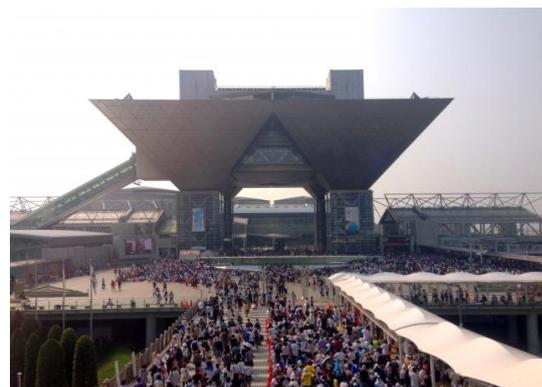
3. 国際福祉機器展に行ってきました！



12月12日～14日まで東京で開催された『国際福祉機器展 H. C. R. 2016』に行ってきました。国際福祉機器展は17か国より530社の企業・団体が出展するアジア最大の福祉機器展で、112,752人の来場者がありました。

出展されていた福祉用具の傾向として、現状の用具に細かい変化や機能を加えたものが多くあったように感じました。

例として、エアマットは、従来からある空気の循環により圧を分散するシステムに加えて、体圧測定器がエアマット全体に取り付けられていることで、体圧を感知して圧抜きをしてくれるものがありました。



車いすではティルトリクライニング型（背もたれが倒れ、座面が傾くタイプ）のもので、背もたれに腕置きが設置してあり、ティルト（座面を傾ける）をかけても腕が置けるため、安全で楽に過ごせるものがありました。歩行器では、小型化して屋内でも

小回りが効いて使いやすくなっているもの、買い物カゴを乗せることができ、買い物などの生活支援を行えるもの、段差を越える機能が付けられたものなどがありました。



このように、福祉用具は細かい変化や機能のものがどんどん市場に出回っています。私達専門職が数ある福祉用具の中から利用者に合ったものを選定するためには、福祉用具の細かな機能について知っておくことが大切です。そのためには、福祉用具の最新情報にもアンテナを張って置く必要があります。東京は遠いですが、大阪でも毎年4月に福祉用具の機器展（バリアフリー展）が開催されています。平成29年は4月20日～22日にインテックス大阪です。新しい情報を得るために、ぜひ一度ご参加ください。



作業療法士 中野 裕貴



★ ホームページをご覧ください！！ ★

情報発信

- ・ 最新の福祉情報満載、クスッと笑えるコラムもあり♪
- ・ 「すこやかセンター通信」
- ・ 地域ケアの現場で蓄えた医療・介護の体験談満載♪
神戸新聞連載中！！

「介護の現場から」

＊当郷ホームページで共に読めます^o^

イベント情報もあり。詳しくは、当郷HPよりご覧ください☆

研修情報

- ・ 認知症セミナー
- ・ 起居・移乗研修
- ・ ポジショニング研修
- ・ 福祉用具研修会 など開催します



ツイッター、Facebook
もよろしくネ！

